



# 華となれ

宮城県仙台二華中学校  
 令和6年度学校だより 第13号  
 【発行日】 令和6年11月11日  
 【連絡先】 022-296-8101  
 【文責】 副校長 武田 誠

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ」には、社会に貢献できる真のリーダー（華＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。



## 1年生 悠久の自然に触れて・SR秋巡検

10月21日（月）、1年生は泉ヶ岳にSR秋巡検へ行ってきました。5月の春巡検では、我々の木を選定し、春の泉ヶ岳の自然観察をしました。今回は、我々の木の生長と変化を観察・記録することと、石英採集と化石採集が目的です。

泉ヶ岳の自然ふれあい館近くでの定点観測では、我々の木の生長だけでなく、周辺の植生の変化や生命の多様性を感じることができました。

午後は七北田川支流の焼河原に移動し、化石採集を行いました。本校講師の花松先生から地層の見方、ハンマーとたがねを使った化石発掘の方法を指導していただき、約2時間にわたって思い思いに化石を採集しました。焼河原は約500万年前地層で、化石が豊富に見られる場所です。子どもたちは自分が選んだ石を割って、中から化石が姿を現すと思わず歓声がこぼれ、皆夢中になって化石採集に励んでいました。

「我々の木」の観察



秋の山の豊かな恵み



新鮮な空気を満喫！



石英を採集しています



石英はみつけれられるかな？



いざ、宝探しへ！



貝の化石がすぐそこに！



秋の巡検については、今後学校で成果をまとめ、2月末の課題研究発表会で発表する予定ですので、どうぞ楽しみにしてください。

実りの  
**秋**

## 2年生 見えない水流を追い求めて・四ッ谷用水フィールドワーク

11月1日（金）、さわやかな秋晴れの下、『四ッ谷用水』をテーマに2年生がフィールドワークを行いました。四ッ谷用水は、伊達政宗が仙台の城下町を整備・発展させるために広瀬川上流から引き、城下町を縦横に走り、市街を潤した用水です。現在は限られた場所でしか水の流れを見ることはできませんが、市内の至る所に暗渠として確認でき、現役の工業用水として活用されています。土木遺構に指定され、人気テレビ番組等でも取り上げられた貴重な歴史的遺構の主要部分の約9キロメートルを歩きました。

当日のガイドには『四ッ谷の水を街並みに！』市民の会の方々には随行いただき、各ポイントで、四ッ谷用水の意義や城下へと広瀬川の水を導水する様々な工夫や苦勞について教えていただきました。事前の学習では、台地状の仙名城下にどうやって広瀬川の水を引いたのかを、地形図や各地の高度など用いて、理論的に学習しました。当日は、用水の水路の長さや山地を掘削して隧道を造る困難さ、谷を渡す掛樋の技術、身近な所に残る用水の痕跡を自分の目・足・肌で感じました。そして、東北最大の藩都を支えるための政宗の壮かつ緻密な構想と、それを実現した家臣団や職人集団の技術力に思いを馳せました。

非常に長いみちのりの学習でしたが、どの生徒も熱心に説明を聞いてペンを走らせ、ゴールの西公園に着いたときの表情には、大きな充足感が見られたと感じます。今後、学校で保存会の方の講話を聞きながらまとめの時間をとり、朝のつどい等でこれまでの学びを発表する予定です。

当日、2学年の保護者の方にも協力をお願いし、参加して下さった方々が通行時の安全に心を砕いていただいたおかげで、子どもたちは事故や怪我なく安全に学習を進めることができました。御協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

葛岡駅に集合し、いざ出発



「四ッ谷の水を街並みに！」市民の会の皆様

葛岡の取水口 毎時700ト！



砂や汚れをとる沈砂地



暗渠が用水の流れを示します

谷に架かる掛樋



大崎八幡でも見られます



暗渠同士が交差するスポット